

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
<ul style="list-style-type: none">・他事業施設等、訪リハの現状が知りたい・他の施設との情報交換、研修・CMについて困っていることへの理解・休職中の看護師の活用を考える（訪問看護師）・病院、施設の地図（リスト、マップ化）・市内病院の育成
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
<ul style="list-style-type: none">・訪問看護ステーション増やして欲しい
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
<ul style="list-style-type: none">・なし
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
<ul style="list-style-type: none">・情報共有、特にケアマネさんに関わることが多いため、利用者のことについて他に対象となる方がいないか・利用者の現状について、出来る能力、している能力、できていないところについて・CMの立場で他サービス（特に医療）の専門性について学びを深める・西海市のケアマネの顔と名前と所属リストが欲しい（年1冊ずつ）・定期的に主治医との情報交換のやりとり（文書、メール等）にて
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
<ul style="list-style-type: none">・運営推進会議の方々に参加依頼を行う（情報交換の場）・ケアマネ会議はあるが出たこと無いけど、今後は少し前向きに考える・近くの先生のハートを掴む！（相談しやすい環境づくり）
(カ) 医療・介護関係者の研修
<ul style="list-style-type: none">・Dに対する理解を深める。小中高等学校での講演と地域内での関係を・施設内外の研修にて医療面の知識も身につけていく・地域ケア会議の充実（月1回）
(キ) 地域住民への普及啓発
<ul style="list-style-type: none">・独居者ネットワークを作る。自助、互助を強める・家族に制度をお知らせする！（介護、医療のことについて）・地区の行事を！地域住民との関係づくり・施設のイベントへ地域の方々を招待、地域の方々にも来ていただけるようにする・地域のお祭り、イベント等で情報周知
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
<ul style="list-style-type: none">・西海ネットの設立（西海市内の医療、介護施設の空き情報）週1回程度更新・情報共有は守秘義務に触れないの？・地域を分ける（広い）・西海市でできることは何があるのか。包括ケアの理解

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
・キーマンを探し、連絡を行う(ワーカー不在の病院) エ、オ再掲
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
・西海市での課題について、実際に何か1つでも解決できる事から解決等するという達成感を感じたい。 ・医療、現場に対して、敷居が高く感じているので、自分から入っていく
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
・困難な場合は包括へ相談する クに再掲 ・(住民) 介入が必要そうなケースはとりあえず包括へ相談してみる クに再掲
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
・キーマンを探し、連絡を行う(ワーカー不在の病院) ア、オ再掲 ・ケアマネージャーとかとの会う曜日を決めて対応 ・遠慮なく連絡をしてきて欲しいと思っているので、連絡や書類の申し出とか頑張る ・利用者それぞれの主治医と話ができる(相談など) ・医療現場の人と話をする ・主治医との面会(勇気を出して積極的に) ・家族とより一層の連絡を取りながら ・主治医と情報共有連携をもっとしていきたい オに再掲
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
・キーマンを探し、連絡を行う(ワーカー不在の病院) ア、エ再掲 ・ENT 前カンファなどケアマネより打診してもらう ・多忙を言い訳にせず、直接あって話をする機会を作る ・主治医と情報共有連携をもっとしていきたい エに再掲 ・(医療連携) 入退院時に入院先のワーカーと連絡を再々行い、入院中も面会に行き病状、状況の確認を行う
(カ) 医療・介護関係者の研修
・今日の様な研修会や地域ケア会議に積極的に参加し、顔の見える関係を作る ・多職種参加できる研修を増やして欲しい。Dr.、病院、MSN など参加して欲しい ・総合職での勉強参加 ・(職種) 医療介護支援事例、勉強会(事業所実名) ・福祉職であり、医療の知識不足、時間を作り勉強する
(キ) 地域住民への普及啓発
・(個人) 住民の介護、家族の理解
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
・困難な場合は包括へ相談する ウに再掲 ・(住民) 介入が必要そうなケースはとりあえず包括へ相談してみる ウに再掲

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
<ul style="list-style-type: none">・不足している社会資源の提案、実現できるような働きかけ・住民（利用者、家族）が在宅で生活していく為の環境づくり・現在ある資源を活用できる体制作り・退院前カンファレンスを他事業所も一緒に参加もする
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
<ul style="list-style-type: none">・顔が見える関係づくりのため地域ケア会議を定例化する。個の問題、地域の問題 施策化まで・認知症の方への対応（警察との連携）・人材不足・・・生産年齢の減少が著しい中、行政全体でどう取り組めるか？（市役所が一体となり、包括ケアを考える）
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
<ul style="list-style-type: none">・若い世代から介護への理解を深める（教育委員会、学校との連携で学生、生徒への講話から）・スタッフ不足の解消、受けたいサービスが受けられるようにする・行政だけではなく、事業所も市民への周知活動を行う・医療機関の連携をスムーズにするには、Dr.だけでなく、多機関スタッフ同士の連携を深め、お互い顔の見える関係を築いていってはどうか
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
<ul style="list-style-type: none">・大々的な研修会も必要だが、事業所内の他の職種とのケアカンファレンス等で、少しずつスキルアップを目指していく・事業所内の内部研修を強化することで、知識不足を解決する・支援拒否者の場足、往診のDr.に情報を得ている・医療機関への情報提供・他の職種への情報提供・特養、老健等での看護師の業務や訪問看護等での看護師の業務が、介護職はあまりよく把握していないかもしれない。（その逆もある。看護師が介護職に対して）これらが要因で、ギクシャクするかもしれない。・病気、内服、認知症（周辺状況）（視点が違う）・在宅可能か不可能か。・施設内処置
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
<ul style="list-style-type: none">・住民に対するこれからの生活（在宅）についての理解を深めるような取り組みや現状を伝える・住民等への制度の周知（介護保険制度、総合事業、地域包括ケアシステム等）・西海市の現状（人口高齢化率、介護認定等）を住民に周知する（現状の理解）・（住民）本人、家族への説明
(カ) 医療・介護関係者の研修
<ul style="list-style-type: none">・西海市以外の市町の現状の把握
(キ) 地域住民への普及啓発
<ul style="list-style-type: none">・なし
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
<ul style="list-style-type: none">・なし

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
<ul style="list-style-type: none">・積極的に事業所に訪問、意見交換・介護、医療情報共有、地域の催しを活用する。地域の理解・地域の情報収集を行う
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
<ul style="list-style-type: none">・地域ケア会議
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
<ul style="list-style-type: none">・各地域の民生委員と仲良くなる・医師との(密)情報交換
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
<ul style="list-style-type: none">・チームケアを意識して、「報、連、相」を実施・利用者からの情報をつなげていく(医療 福祉)・情報提供・職場内での情報共有、考え方、方針の統一
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
<ul style="list-style-type: none">・担当 CM となった時、主治医へ挨拶に行く・精神科医師との連携・医療機関とのつながり・介護保険更新時には、担当医を訪問
(カ) 医療・介護関係者の研修
<ul style="list-style-type: none">・介護職印の医療に関する知識をつける勉強会をする・わからないことはそれぞれの専門職に教えてもらう・介護する(若い世代)側の医療、介護、福祉等の情報を得る場を作る。 介護をうける高齢者も同様、今までの老人会などを盛り上げる・合同の勉強会・自信をつける
(キ) 地域住民への普及啓発
<ul style="list-style-type: none">・近所づきあいを密にすることの大切さを住民に伝える・住民目線で考える。・地域の集まりへの参加・認知症への啓発活動・医療、介護以外の多職種連携(配送業、卸売業、郵便局)・地域行事への参加・介護をする年代向けへの講座を増やす・家族の医療、介護の理解・見守り等において今の医療、介護、福祉等の不足を補うために民間業者を巻き込む。移動販売、郵便局、その他商店
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
<ul style="list-style-type: none">・地域ケア会議の定期的開催

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
<ul style="list-style-type: none">・「ちょっと手伝い」ボランティアの育成・元気高齢者の活用(ボランティア)・Dr.に相談の連絡。受けられる大まかな時間があればいい(例:A医師・・・木14:00～15:00、B医師・・・水13:00～14:00など)・医療機関の情報提供、診療科目、応診地域強み
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
<ul style="list-style-type: none">・地区別勉強会の開催(制度、病気のことなど)・多職種参加の症例検討会・病院、朝の迎えもあればいい。地区の拠点を決めて・支援拒否者の対応マニュアル、精神科の受診、介護サービス拒否・交通アクセス。1人1人の要望を聞いていると大変なので、ある程度どこかで定期受診日を集約し、数名ずつ効率よく移送サービスを行う
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
<ul style="list-style-type: none">・ITによる情報交換、ネットの構築・西海市独自のインフラ整備・連携。たての繋がりでは出来ないので、他事業所、他職種が参加できる地域ケア会議を活発に、電子メールでのやり取り等も活用・受診記録、服薬手帳、介護状況の記録
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
<ul style="list-style-type: none">・認知症の方が増えて、1人で歩き回るかもしれない。警察と連携を行う・服薬管理、主治医の協力が得られるようであれば、主治医より管理が可能な人に頼んでもらう・医療従事者と介護従事者の情報共有の場を設定・医師、歯科医師が参加しやすい体制での場の設置(病院のデイケア室で学習、待合、ケア会議)飲み会でも・・・
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
<ul style="list-style-type: none">・相談機能を充実させた包括センターの設置・行政との連携を深める。(何でも相談する)・何でも相談できる窓口を常時開く。カフェ的な。・連携。外来が休診の時、(月2回木曜午後)を利用して、地域の人が相談や介護者が集える場所を提供する
(カ) 医療・介護関係者の研修
<ul style="list-style-type: none">・各事業所の見学をお互い行う(お互いの特徴を知る)・各事業所(病院、薬局、デイ)の見学が出来る・他職種参加型学習会(関係づくりの場)の定例化(医療、福祉、介護、保健全て)・行政、関係機関がおこなう研修会に積極的に参加する・多職種が参加できる研修会の実施
(キ) 地域住民への普及啓発
<ul style="list-style-type: none">・住民への啓発、公民館で説明、栄養、病気、制度、運動・元気に年をとるための出前講座を積極的に行う・住民の理解、年に3回病院内で介護教室を開いているので、「知りたがっていること」をテーマにして説明する・家族の医療、介護の認知度の向上・市民へ現状を伝える場を増やしていく。住民への周知
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
<ul style="list-style-type: none">・先進地域の視察

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
・各医療機関、介護施設、見学、訪問、特徴、対応範囲の把握
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
・なし
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
・なし
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
・医療職合同での勉強会の実施（職種） ・各事業所発行のお知らせ新聞をお互いに支援（職場） ・お互いのメールアドレスの交換。気軽に連絡。医師、事業者（個人） ・多職種の交流会（ケース検討会）を開催する（職種） ・担当者会議において本人、事業所、できるだけ家族参加を依頼または電話での聞きとりを行い、必要であれば主治医との面会（内服、通院での問題）職種 ・利用者退院後時、医師も交えて在宅ケアに関係する事業者と担当者会議（職種） ・懇親会、医師、介護職のパーティーの実施（職種） ・ケアマネジャーは初回ケアプランを担当医師に配布（介護利用状況を医師が確認できる）職種 ・主治医とは、疾患面だけでなく、栄養（食事面）についても状況を報告する（職種） ・通所リハを卒業後も運動を継続できるところまでしっかり指導し、Ds スタッフにも伝達する（職） ・ご本人へ自主トレーニングを指導し、その内容を CM へ伝達しておく（職）
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
・なし
(カ) 医療・介護関係者の研修
・なし
(キ) 地域住民への普及啓発
・地域貢献、介護予防、PT,OT がリハビリ普及運動を継続的に行う。併せてレク体操指導 ・老人会、ゲートボールクラブ等々、（カラオケ、サロン、への情報発信。医療、介護、保健）（個、職、職種） ・服薬支援や服薬後の残薬を減らす支援への協力をさらに進めたい ・認知症サポートリーダーをさらに多く育成して、ボランティアとして人材育成を図る ・介護教室（各公民館単位）（住民へのサービスの紹介と問題の抽出） ・食の研修（住民の）栄養士や調理師の ・薬の基礎知識について研修を行う ・後発薬品の理解と利用促進に協力したい
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
・コミュニティバスを作る ・圏域において、HP を開設し（会員制）事業所紹介、所属する職員の紹介、お互いが顔の見える確認したい時すぐ出来る情報公開 ・徘徊、行方不明者対策、予め顔写真、名前、年齢、を最寄り交番に届けておく（個、職、職種） ・公共機関の利便性が悪い（補助の検討）

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

- ・精神科病院への偏見、病院外への住民から偏見した目で見ないように啓発する
- ・精神科病院への偏見をなくす説明
- ・施設利用時の本人の状態、情報の共有
- ・定期的な情報交換(意見交換) 仕事内容、取り組み
- ・各職種での見学(実際の活動場面)
- ・市内、医療関係者と介護関係者が話し合える研修の場(医療 介護、介護 医療への提供体制を作る)
- ・関係者が出向いて地域での説明会(HP について GH について、通所について)
- ・パワーリハ(短時間リハ)を各地域の保健センターで実施する
- ・小地域での連携リハ教室開催の協力提案
- ・服薬等の知識理解のため、薬剤師による勉強会等を積極的に開催する
- ・職員研修など、職員自身の知識を高める機会を作る
- ・飲み会
- ・行政とかにまかせずに自分たちでまずは小さな圏域で集ってみる
- ・施設自体の、まわりへの周知(どういうサービスがある、対象者など)
- ・不明点等の気軽な問い合わせ
- ・職種によって、多忙時間もあるので、どの時間なら対応しやすいかあらかじめ質問内容を FAX する
- ・別々の日に他職種が訪問する
- ・区域を分けてついでに顔を確認しに行く(ポスト、電気、門など異変は無いか)
- ・地区の会合に参加させてもらう(質問に答えたり逆に困っているか等を知る)
- ・お薬相談の日みたいなことを地域で開催する
- ・薬局の方ともっと仲良くなる
- ・ケアマネより Dr.への計画配布(情報共有)
- ・ケアマネより薬局への相談、連絡、計画書配布、情報共有

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
・使える資源の把握
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
・地元温泉センターに入浴介助スタッフを配置する（軽度介助の方） ・歩行機能低下 ・タクシー代負担大で通院が大変な方が多いです。以前のようにDCで受けられたらいい・・・ ・離島にタクシー等なくバス停まで歩けない方の移送サービスの整備
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
・なし
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
・地元温泉センターに入浴介助スタッフを配置する（軽度介助の方） ・歩行機能低下 ・タクシー代負担大で通院が大変な方が多いです。以前のようにDCで受けられたらいい・・・ ・離島にタクシー等なくバス停まで歩けない方の移送サービスの整備
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
・服薬管理が出来ていないことで、主治医や薬剤師、看護師へ相談 ・体調の変化で利用者本人が困難な場合、受診前に病院へ連絡する
(カ) 医療・介護関係者の研修
・なし
(キ) 地域住民への普及啓発
・なし
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
・なし
不明
・あじさいネットの接続

医療療介護連携に関する課題

西海市 グループ

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握
<ul style="list-style-type: none">・各施設の特徴を把握しておく・制度等についての自分自身の学習。西海市のサービス等現状の把握を心がける・西海市内での先駆的な地域の取り組みを紹介していく
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
<ul style="list-style-type: none">・地域ケア会議をもっと充実させる
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
<ul style="list-style-type: none">・かかりつけ医と報告を兼ねて会う機会を多くし、話しやすい関係を作る・(住民) 独居高齢者も多いが、息子と2人暮らしの方達も多く、息子さんが同居されていても親の面倒をあまり見られていないケースが多い。食事の面でも心配なことが多い・各医療機関のNs 意見交換会・ヘルパーさんとの情報共有が出来るようにしていきたい・ケアマネさんと出来るだけあって話す・ケアマネジャーと医師との連絡、相談を出来る場を作る・送迎システム(受診、リハビリ)を行政側に考えてもらいたい(離島含む)
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
<ul style="list-style-type: none">・医療機関との連携がスムーズに行うためにも情報提供し、夜間でも対応できるようにして欲しい・当事業所の利用者以外でも、情報があれば包括等に連絡する・地域の人たちとのコミュニケーション、互いに相談する、される側の人間関係を日ごろから築く
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
<ul style="list-style-type: none">・地域に出かけて介護相談
(カ) 医療・介護関係者の研修
<ul style="list-style-type: none">・ケアマネの他事業所職場体験学習・連携医療機関と合同で勉強会を行う・他職種協議会等の交流会・積極的な研修参加
(キ) 地域住民への普及啓発
<ul style="list-style-type: none">・住民への制度等について周知・「訪問看護」って何をするのか分かりやすく説明する(広く知ってもらう)・運営推進会議での情報交換・組合会等での呼びかけ・身近な人へのアドバイス・認知症カフェ場所を提供します
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
<ul style="list-style-type: none">・なし